

父島・母島（東京都）



小笠原諸島は東京から南に約1000km、聳島列島、父島列島、母島列島、火山（硫黄）列島、2013年に噴火して以降面積が拡大している西之島、そして日本最東端の南鳥島、日本最南端の沖ノ鳥島などの孤島を含む大小30余りの島々からなる海洋島です。そのうち小笠原で生活ができる有人島は父島と母島の2島となります。

- ・ 父島：面積23.45km²
周囲52km
人口2,130人（2022年9月時点）
- ・ 母島：面積19.88km²
周囲58km
人口452人（2022年9月時点）

小笠原村公HP

https://www.vill.o_gasawara.tokyo.jp/



交通・アクセス情報

父島行きは、東京港竹芝桟橋から定期船「おがさわら丸」で片道24時間（概ね6日に1便）

※東京港竹芝桟橋へのアクセス
（新交通ゆりかもめ「竹芝駅」徒歩1分、JR山手線「浜松町駅」北口徒歩7分、都営大江戸線「大門駅」徒歩7分）

母島行きは、父島二見港から定期船「ははじま丸」で片道2時間（週に4~5便、日によって片道運航有）



ははじま丸

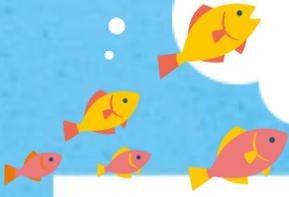
観光情報

◎観光名所や見どころ

- ・父島、母島ともに島のほとんどが国立公園に指定されていることで、都立大神山公園周辺においても小笠原固有の植物を多数観察することができます。また集落の近くのビーチでは海水浴を楽しめるだけでなく、近くの展望台からは遠く水平線を望むことができます。
- ・父島の観光名所の一つで、太平洋に沈む夕日を眺められる「ウェザーステーション」があります。この展望台では冬季に小笠原に来遊するザトウクジラを観察することができます。また父島の南西に位置する「南島」は、小笠原随一の景勝地として人気が高いだけでなく、島全体が天然記念物に指定されていることで多くあの観光客が訪れます。（植生回復を目的に年に約3か月間の入島禁止期間を設けています）
- ・母島では、亜熱帯の森を散策する陸のツアーが人気です。その中でも集落の北に位置する「石門」には、小笠原固有の動植物が数多く生息しています。（年に半年間は立入禁止期間を設けています）
- ・また、母島最南端の「小富士」、母島最高峰の「乳房山」、集落から近く数分で登頂できる「小剣先山」などは、一年を通して利用でき遊歩道を歩きながら母島の魅力に触れることができます。



おすすめの宿



・父島にはホテル、ペンション、民宿あわせて62軒の宿があります。
また母島にはペンション、民宿あわせて12軒の宿があります。

(2022年9月現在)

・父島、母島ともに、小規模な宿が多く、部屋タイプもドミトリーからバス・トイレ付の個室まで、宿によって様々です。また食事も1泊2食付、1泊朝食付、素泊まりタイプがあります。

・詳しくは、それぞれの観光協会ホームページまたは電話にてお問い合わせください。

- ・ **【父島】** 小笠原村観光協会
電話：04998-2-2587
- ・ **【母島】** 小笠原母島観光協会
電話：04998-3-2300



島のグルメ



レストラン・カフェ など

小笠原諸島ではパッションフルーツや島レモンなど南国の果物の他、青パパイヤ、シカクマメ、島トマトなどの島食材が盛りだくさんです。海産物ではメカジキやソデイカ、オナガダイなどの魚が水揚げされています。島の農産物、新鮮な海産物は父島、母島の飲食店や宿で提供されています。ご来島の際には、ぜひお召し上がりください。



島からのお取り寄せ



通販サイト、ふるさと納税の紹介

・小笠原村では、ふるさと納税をしていただいた方に、お礼の品(特産品)として「小笠原村ふるさと感謝券」を贈呈しています。この感謝券は村内でのお土産物の購入、宿代の支払い、体験ツアー、飲食等にご利用可能です。寄附いただいた額の3割分を「小笠原村ふるさと感謝券」として紙面又は電子版にて贈呈いたしますので、観光、お仕事でご来島された際には是非ご利用ください。また、返礼品を小笠原の特産品からお選びいただくこともできます。

・お申し込みは、ふるさと寄付ポータルサイト「ふるさとチョイス」でお手続きください。



島での暮らし



島での生活や仕事、移住支援等

- ・小笠原では、定期船「おがさわら丸」の入港と出港に合わせて、島民の仕事と休日が組まれます。「おがさわら丸」入港によって観光で来島される方、お仕事での来島の方への案内が始まります。また生活物資（食料品や生活必需品）も同じ「おがさわら丸」で届くため、その日から島の商店には各種商品が並ぶことになり、食材等の買い物をする島民で溢れます。
- ・入港から出港にかけての3日間は、来島された方に実施される陸ツアー、海ツアー、ナイトツアーなどのアクティビティが行われる他、島内の飲食店などが賑やかになります。
- ・その一方で、「おがさわら丸」が父島を出港した後の島内は一転して静かになり、次の入港までは緩やかな島時間が流れることになります。
- ・本土から小笠原へは、片道24時間の船旅で、1航海5泊6日（船内2泊）が通常の旅程となりますが、多客期となる5月の大型連休、7、8月の夏期期間には週2便（父島着発運航）の運航スケジュールが組まれることもあります。
- ・小笠原村民は、この運航スケジュールを元に、仕事や休暇上京の日程、本土での医療機関受診予定などを立てていくことになります。
- ・現在、小笠原には空き家等の物件はほぼ無いこと、また本土と比較して医療資源が限られていることから積極的な移住促進は行っていないのが実情ですが、各事業所が必要とする専門職員や技術職員などの求人は随時行われています。それらの求人のほとんどが住居付の募集であるため、移住を希望されている方には職種から選んでいただくことをお勧めしています。

